

1 研究主題

主体的に学びに向かう子の育成

～各教科の特質に応じた考える活動の工夫を通して～

教科：各教科

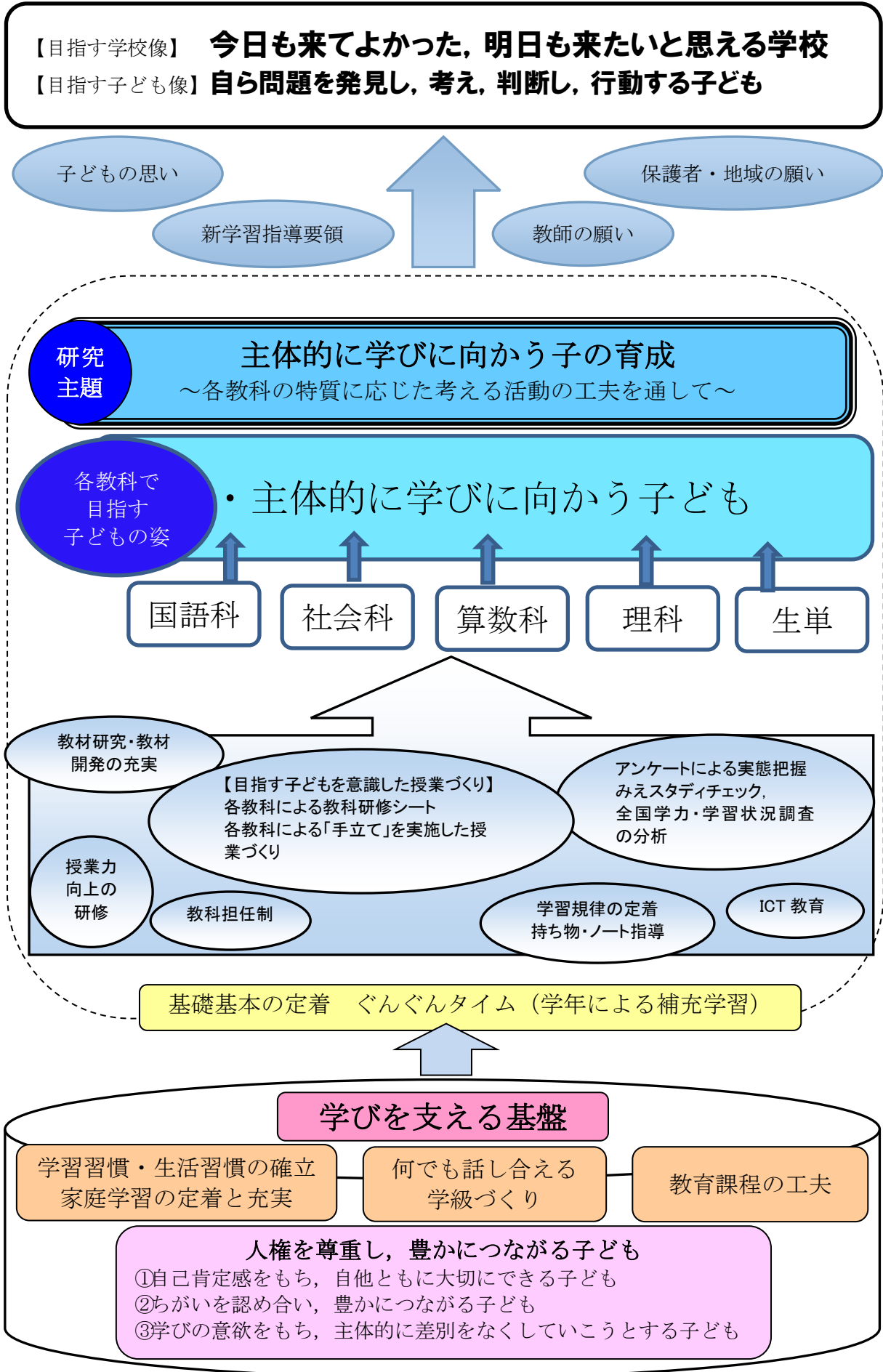
2 主題設定の理由

本校は「今日も来てよかった、明日も来たいと思える学校」を学校教育目標に掲げ教職員全体で教育活動に取り組んでいる。それに伴い、研修部では、自ら課題解決に向けて探求し、わかることの「楽しさ」、仲間との学びを「楽しい」、明日も学びたいと思える授業づくりを目指していくために、今年度、「主体的に学びに向かう子の育成」を研修主題に掲げ、職員全員で研究に取り組んでいく。

昨年度、子どもたちの中には、教師の指示を待って動き出したり、自分が一目見て難しいと判断した課題には、あきらめたり人任せにしたりするなど、最後までとことんやり抜こうとする姿勢が乏しいという課題が見られた。そこで教師が課題を子どもたちに提示し、授業を展開していくような教師主導の授業ではなく、子どもたち自らが「知りたい、学びたい、深めたい」とする主体的に学びを進められるような授業をつくること、仲間と協働的に学び合い、課題を解決する力を育成することが必要であると考え一昨年度から、「主体的・協働的に学び合う子の育成」という研究主題を掲げ研究に取り組んできた。

その結果、子どもたちが授業に積極的に参加する姿が見られたり、目の前の課題に対し粘り強く取り組もうとしたりする姿勢や、自分の考えを何とか、もとうとする場面も見られるようになった。しかし、積極的な姿・意欲的に授業に参加する姿が見られた一方で、その姿は本当に主体的であったのかという疑問をもった。それは、毎時間教師が児童の興味のもつ題材等を用意し導入を工夫した授業を行うことによる児童の積極性・意欲を主体的だと捉えてしまっているのではないかということである。主体的に学習に向かう子どもを育成するためには、もちろんこのような積極性や意欲は必要不可欠と考える。しかし、教師がそこで満足してしまっているようでは子どもたちの主体性を育むことはできない。これらは、結局教師が常に材を与え続ける授業であり、毎時間、児童は教師の材を待ち、どのような学習をするのか、授業が始まってみないとわからない状態であり、見通しをもっていないまま授業を受けることになる。つまり児童が受け身となった授業が中心であるため、そこに児童の主体性を育むことはできない。だからこそ、主体的に学ぶ姿を目標に定め学習課題に対して、より子どもたちが主体的に追求する姿を育てていくために今年度から「主体的に学びに向かう子の育成」を研修主題に変更し、各教科で実践を重ね研修主題にせまる子どもたちを育てていきたい。

3 研究の構想図



4 目指す子どもの姿

「主体的に学びに向かう子ども」の育成を目指していく。

「主体的」とは

- ①身の回りのことや社会に関心を持ち、意欲的に活動すること。
- ②自ら課題を持ち、筋道を立てて考え、課題解決に臨むこと。
- ③学んだことや身に付けたことをもとに次の課題や他の教科に生かす。

以上のことを踏まえ、目指す子どもの姿を以下のように設定する。

	主体的な姿
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を持ち、目標・課題に対する見通しもち、目標達成・課題解決に向けて自分で考え、それを実践することができる。 ・図、言葉、式等を用いて、伝えるツールからその場に適したものを選択し自分の考えを表現することができる。

5 研究主題の達成に向けた重点取り組み

「手だて①」

子どもの様子・発言・ふり返りを次の授業のめあてや学習展開に生かす。

全教科で
取り組む

- ①なぜ、その「めあて」なのか。
- ②なぜ、その発問になるのか。
- ③なぜ、その導入を取り入れたのか。
- ④なぜ、その学習展開にするのか。
- ⑤なぜ、そのふり返りを期待するのか。



・目の前の子どもの姿を想定している
・子どもにつけなければならない力
2つの視点をもって答えられるように

「手立て②」

単元の見通し、1時間の見通しをもった授業づくりを行う。

各教科の
特色を生かす

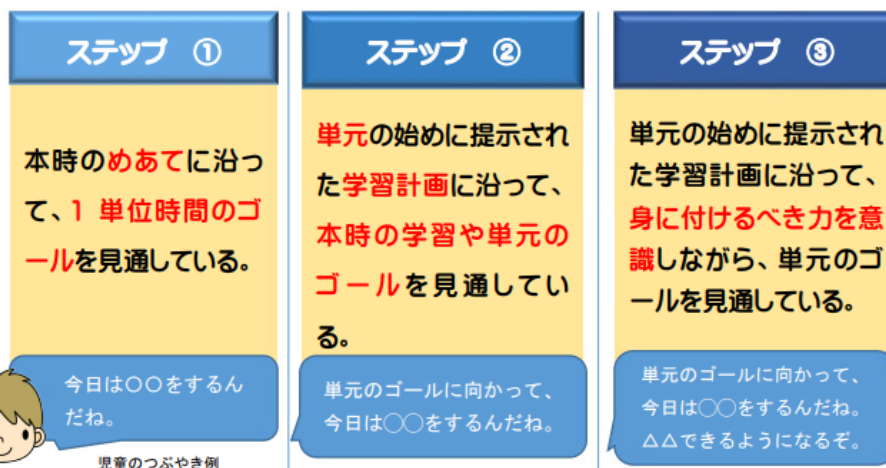
「見通す」とは、目の前の目標や課題達成のために、どのような学習過程が必要か、児童自身が理解していることを指す。見通しをもった学習に取り組むことで、授業に対する目的や必要性を実感でき、粘り強く学びに向かうことができると考える。

見通しをもたせるために大切なこと

- ・1時間ごとに課題やめあてを明確にする。
- ・単元を通した課題やめあてを子どもの思いや発言を加味しながら立てる。
- ・単元を通した課題やめあての解決に向けた学習計画を作成する。
- ・見える化したもの＝「単元構想図」を取り入れる。(学習指導案)

見通しをもった授業ステップと子どもの変化(引用元)

http://www.sagaed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h29/01_syo_chu_kakukyuka/01_syou_kokugo/document/s/2_2_tedate_hari.pdf



手立て③ 自分の考えを表現するための手立てを考える。

「考えを表現する」とは、子どもは様々な方法で自分の考えを表現しており、発言すること、ノート等へ記述することなどである。ノート等への記述は、文章だけでなく絵や図、表、グラフも含まれる。教科によっても表現方法は変わる。前述の2つ以外にも、動きや演奏・歌唱といった行動もまた表現方法の一つである。

自分の考えを他者に伝える際には、相手意識をもち順序立てて、自分の考えを表現することが必要である。

「自分の考えを表現する」ために大切にしたいこと

- ・表現する術が身につける指導。(言葉, 文, 式, グラフ, ICT)
- ・自分と対話する(振り返りでの自分の考えの変容, 新たな問いの発見)
- ・根拠を明確にもち, 考えを伝える指導。
- ・自分の考えを伝えるときの手助けとなる「話型」。(学年に応じて作成)
- ・ICTの積極的な活用。(実物投影機, オクリンクなど)
- ・相手意識をもって伝えることができているかどうか。
- ・子どもたちの実態に応じた学習形態の工夫。(意図をもったペア学習, グループ学習など)

※ペア・グループ・全体の場で児童の考えを交流する際、教師が意図をもち指導すること、子どもたち自らもその意図を理解した上で活動に取り組ませたい。また、一人ひとりが自分の考えを伝え合うことができるクラス環境をつくることも意識していく。

6 研修を進めるにあたって

① 方法について

1 学期

- ・教科やメンバー構成を決める。
- ・教科グループにわかれて、「教科研修シート」を教科部会にて作成する。

「教科研修シート」

- ①その教科にける主体的に学びあう子どもの姿はどのような姿か。
- ②単元の見通し、1時間の見通しをもった授業づくりの手立て
- ③考えを表現するための、その教科における考えられる手立て

- ・教員それぞれが「教科研修シート」をもとに教材研究を行う。
※各教科における取り組み内容は必ず学年で共有し実践する。
- ・授業公開による全体研修会を行う。(学期に1回ずつ実施予定)
- ・授業公開後、事後検討会を行う。

2 学期

- ・教員それぞれが引き続き「教科研修シート」をもとに教材研究を行う。
- ・授業公開による全体研修会を行う。(学期に1回ずつ実施予定)
- ・授業公開後、事後検討会を行う。

3 学期

- ・教員それぞれ「教科研修シート」をもとに教材研究を行う。
- ・授業公開による全体研修会を行う。(学期に1回ずつ実施予定)
- ・「教科研修シートの見直し」を行う。

②内容について

- ・各単元における既習事項の定着状況の確認，児童の学習に対する意識を見るためにふり返りを行う。
- ・児童のふり返りの内容や学習状況から，次の授業内容を構成する。
- ・研究主題の達成に向けての重点取り組みの内容を取り入れた授業展開を考える。

③基礎・基本の定着に向けて

- ◎家庭学習の定着と充実
- ◎ぐんぐんタイム（補充の学習）
- ◎学習規律の徹底やノート指導の統一